



## 知っておきたい！「景観」に関する基礎知識

### ■「景観」とは・・・

地域ごとの自然や歴史、文化等を背景に、人々の生活や経済活動の積み重ねによりつくられていくものであり、地域の個性や特色を表すものです。また、景観は、眺める対象である風景や景色などを表す「景」と、それを眺める人の行動である「観」で表されるように、目に見える風景や景色だけでなく、見る人が好ましく感じたりする感覚なども含めて、一体となって見えてくるものが景観です。

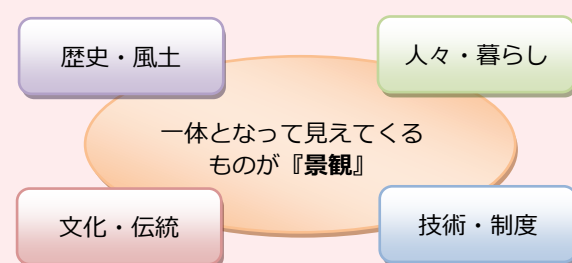
### ■「視点場」とは・・・

視点場とは視点が位置する場所のことです。視点は景観を見る人間自体であり、視点場は視点である人間が位置する場所を指します。駅や大通りなど多くの人から見られる場所、また丘の上や橋梁上など、良好な景観の得られる場所が一般に視点場として捉えられます。

フィールドワーク講座の様子や  
景観行政情報を随時掲載！  
益田市景観ブログ いいとこ、みつけた！  
<http://blog.canpan.info/mkeikan>  
景観行政団体益田市 facebook  
<https://www.facebook.com/mkeikan>



視点場のイメージ



国道 488 号を視点場にとすると、匹見川と背後の山々の間に、なだらかな斜面に沿って広がる赤瓦屋根の集落を一望できます。



山側の高い場所を視点場にとすると、地区を見下ろすことになり、田園風景など、農村景観の広がりが感じられます。

### 益田市景観フィールドワーク講座

#### ～第 3 回 匹見町澄川土井ノ原地区～

日時：平成 28 年 9 月 24 日（土）  
10：00～16：30

会場：匹見下地区振興センター

参加者：のべ 17 名

益田市景観フィールドワーク講座の内容や感想などを、参加者のみなさんにお伝えします。

◇◆◇ 益田市景観フィールドワーク講座とは ◇◆◇

益田市は、平成 26 年 12 月に「益田市景観計画」を策定しました。今後、この計画を活かしたまちづくりに、市民のみなさんと共に取り組んでいくためには、より多くの方に益田の景観について興味を持ち、その魅力を知っていただくことが大切だと考えます。そこで、これまでとは少し違った景観へのアプローチとして、写真家の秋野 深（あきの じん）氏を講師に、カメラを持ってまちを歩き、興味を持った景観を思い思いに撮影する「景観フィールドワーク講座」を開催しました。

### 益田市景観フィールドワーク講座 第 3 回は「河川景観」の匹見町澄川土井ノ原地区！！

匹見川流域は、美しい自然景観はもとより、集落の赤瓦屋根と周囲の山々が作り出す農村景観を見ることができ、これらもまた流域景観として大切な景観資源です。匹見川沿いに位置する土井ノ原地区の景観は、匹見川と山々と空、そして、集落内に広がる田畑と赤瓦屋根で形成されています。山々の緑と田畑の緑に赤瓦が映える風景は、季節や天気、時間によって様々な表情を見せてくれます。自然とともにある人々の営みが、農村景観の中に受け継がれています。

「益田市景観計画」では、特色あるまち並みを有する地域など、今後、重点的に景観の保全・形成に取り組むことを検討していきたい地区について、市内 20 地区程度を「景観計画重点地区」候補地域として盛り込んでいます。景観フィールドワーク講座は、この「景観計画重点地区」候補地域を中心に開催しています。

### 当日のプログラム

#### ☆オリエンテーション☆

事務局からの景観フィールドワーク講座の説明の後、秋野先生から、景観の捉え方のヒントや撮影のポイントなどについて説明していただきました。

#### ☆フィールドワーク☆

土井ノ原地区に移動し、まずは石垣を題材に、オリエンテーションの実践を行いました。その後、地区の中を自由に散策して撮影しました。

#### ☆ふりかえり☆

参加者みんなで写真を見ることで、他の人がどんな景観に興味を持ったのかを知ることができました。石垣や水路、赤瓦屋根など、同じ風景を見ていても、捉え方は様々でした。また、興味を持った景観や見てほしい景観などを地図に書き込んでいただきました。

#### ☆閉会☆

アンケートでは、印象に残った景観や、今後フィールドワークをしてみたい景観を書いていただきました。

### 益田市景観フィールドワーク講座 ～第 3 回 匹見町澄川土井ノ原地区～

第 3 回となる今回は、開催地区にお住まいの方にも多数参加いただき、一緒に土井ノ原地区の景観を撮影しました。

オリエンテーションでは、事務局から講座の開催趣旨と、景観計画重点地区候補地域について簡単に説明を行いました。続いて、講師の秋野先生から景観の特色を見つけるためのポイントや、写真で伝えるための工夫について説明していただきました。また、カメラのズーム機能を活かした表現について、実際にカメラを使って説明していただきました。

午後からは、参加者全員で土井ノ原地区に移動して、秋野先生と一緒に、実際にカメラを持ってのまち歩きを行いました。参加者のみなさんは、秋野先生のアドバイスを思い出しながら、土井ノ原地区を自由に歩き、興味を持った景観や特徴的な景観を見つけては思い思いに撮影していきました。

ふりかえりの時間では、秋野先生のコメントを交えながら、参加者のみなさんが撮影した写真をスライドに映していただきました。撮影した写真を見ることで、他の人がどのような景観に興味を持ったのか、また、同じ風景でも捉える視点は様々だということを知るよい機会になりました。

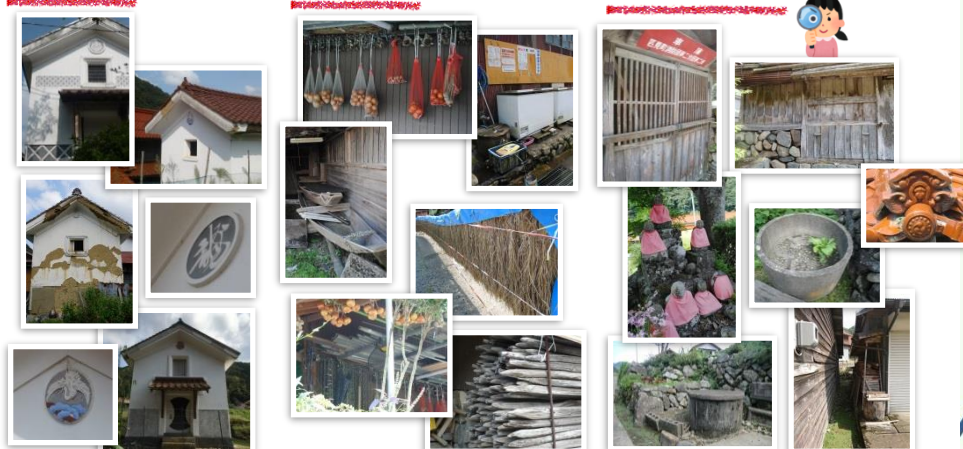
当日は、天候にも恵まれ、空と山々と匹見川、田畑と赤瓦屋根が作りだす土井ノ原地区の農村景観を、より一層美しく見ることができました。長時間にわたるプログラムでしたが、ご参加いただきありがとうございました。

参加者の皆さんが、土井ノ原地区のどんな景観に興味を持ち、魅力を感じてカメラを向けたのか、撮影した写真から分析していきます。



1. A traditional wooden structure, possibly a gate or shrine, surrounded by greenery.
 2. A terraced rice field with a blue fence in the foreground.
 3. A view of a village with traditional red-roofed buildings nestled in a valley.
 4. A wide view of a village with traditional red-roofed buildings and a river.
 5. A view of a village with traditional red-roofed buildings and a river.
 6. A view of a village with traditional red-roofed buildings and a river.
 7. A view of a village with traditional red-roofed buildings and a river.

## 生活景



暮らしの中の水



集落の中を小川が流れ、汲池や貯水槽が見られる。身近に水を感じる風景からは、昔から豊かな水を生活に取り入れていることがよく分かる。



⇒ 注目したのはココ！

水がとてもキレイ

高い所からの  
ながめ

この地区には、すべての  
場所に花が咲いている  
のがよかった！

彼岸花と石垣、空、  
花と赤瓦・・・どの  
景観もグッド！

家主がいない空き家  
も…さみしい

全域が歴史的な生活感が  
にじみ出ている生活景。  
匹見下地区のシンボルと  
して残してほしい。

中国電力  
澄川発電所